

第2回 香南市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定委員会 議事録

- 開催日時：令和2年8月27日（木）10:00～11:30
- 開催場所：香南市 のいちふれあいセンター2階 研修室
- 出席委員：受田浩之委員長、田内修二副委員長、岡林八重美委員、宮崎利博委員、中脇正人委員、小松さやか委員、古川和佳委員、田中愉之委員、百田年真委員、水田貴士委員、土居秀臣委員
- 事務局：岡林商工観光課長、前川こども課長、岩田地域支援課長、小松農林水産課長、西内企画財政課長、門脇企画財政課長補佐、田淵、中川

【次第】

1. 開会
2. 委員長あいさつ
3. 議事
 - (1) 総合戦略の取り組み状況について
 - (2) 第2期 総合戦略【アンケート用】冊子（案）
およびアンケート調査（案）の実施について

- 委員長
第2期総合戦略に関する策定委員会において、「子どもたちを中心に据えていきましょう。」ということで、皆さまと議論を進めてきた。子どもたちの思いをしっかりと受け止めながら、思いを施策に反映していこうと、このアンケートが実施されようとしている。今日決めておかないといけないのは、9月下旬までに調査票を作成し、その後発送準備にかかるので、本日提案しているアンケートの対象者を小学6年生、中学3年生、18歳の3区分とすること、さらにアンケート実施にあたって、子どもたちに向けた総合戦略の資料を作成し添付をすること。この資料の内容に関する皆さまからのご意見、そして、アンケートの設問や表現方法に関して皆さまからご意見をいただき、改善点があればそのご意見を反映していこうと考えている。9月末までにこれを固めるとして、ゼロから作り上げていくような意見が出てくると間に合わないかもしれない。そのあたりは皆さまのご意見を伺って、修正がどの程度になるか考えながら今後は取り扱わせていただきたい。なお、アンケートは毎年実施し、変化を知ることが極めて重要である。その変化が良い方向に変わっているとしたら、効果的な施策が講じられていることの反映である可能性もあるし、それが思っている方向と違えば、何らかの具体的対応が迫られているということになる。一回でいろいろな設問を設定し投げかけるよりは、定点で観測する効果は大きい。

その点で今回の資料3-2にあるアンケートは、定点の基盤になるので、毎回アンケートの設問が変わってしまうようなものであってはいけないことになる。回答の変化が

見やすいものがここに盛り込まれているのかどうかといった点で、皆様からの前向きなご意見をいただきたい。これから議論して決めていきたい点は以上である。

高知県でも総合戦略に関してのアンケート調査が第1期に実施されているが、その時の総合戦略のアンケートは、特に県外にいる若い世代が高知に戻ってきたいかどうか、という「希望」の部分を知りたいということで、Uターン希望者が若い世代でどれくらいあるのかを知ろうということでなかったか。

■委員

その内容だったと思われる。

■委員長

その後、県では総合戦略に関してアンケート調査はあったのか。

■委員

第1期総合戦略策定時にアンケート調査はあったと記憶している。第2期になりアンケートを取ったのか、情報は持っていない。

■委員長

おそろくないと思う。したがって総合戦略でターゲットを明確にして、定点でモニタリングしていこうというアンケートというのは、34市町村、県としてもあまり聞いていないし、全国の市町村でどれだけ実施されているかは把握できていない。事務局とも参考になるものを最初に探していこうという話はしたが、何か参考になるものがあったここまで提案したのか。それともゼロから香南市として考えられたものか。

■事務局

事務局として県下の内容も確認したが、県と同じで第1期の策定の時に子どもたちにアンケートというのはあったが、定点での自治体は見当たらなかった。内容については第1期の策定の時のアンケートを参考にさせて頂いた状況である。

■委員長

こういったアンケートの施行自体、非常に特徴的であるということをも認識しておかなければならない。これが他市町村や県にモデルとして伝わっていく。こんな取り組みがあるのだというものができれば、これこそが香南市の未来を支える子どもたちに対して、おとなが真剣に考えているというメッセージになるかもしれない。こういったことを含めて自由にご意見を頂きたい。

■委員

非常に素晴らしいアンケートや戦略を、子どもたちやその親に見て頂くように設定されている。そして、アンケートの回収率を上げるために何かできることはないかと考えたが、子どもは自分で作業や仕事をしてその対価をもらえると嬉しいと思うので、アンケートに答えることで、お金や物ではなく、地域で使える硬貨や共通券などがもらえ、それで作物の購入など体験できることを特典として付けたら、回収率も上がり、地域のためになるのではないかと思う。

また、総合戦略の中で、香南市には森田村塾という何らかの理由で学校に行けない子供を預かって教育をしている施設がある。おそらく当事者でなければ知らない、そ

った素晴らしい受け皿に触れていない。通っている子どもや親がそこに通うことを恥ずかしいことではないと思え、いい方向に捉えてもらえるようなことも香南市としての取り組みをオープンにできないか。その点もご検討頂き、加えて頂きたい。

■委員長 一点目は回収率をどこまで上げていけるか、ここは極めて重要である。本来は目標数値があってそのKPI達成を絶対やるんだっていうところが必要だと思うが、事務局は何かアンケートの実施する回収率についての想定や目標はあるか。

■事務局 小学6年生や中学3年生に関しては、学校を通じてということで、100%に近い回収率を想定している。問題は中学校を卒業した18歳の子どもの回収率で、今の時点では目標はないが、回収率を上げるよう、今後事務局のほうで検討したいと思う。

■委員長 総合戦略策定委員会の立場として、一緒にこのアンケートを担っている。そういう思いを持って、回収率がどれだけ上がっていくのか、しっかりモニターしたい。そこに対してアドバイスができるようであれば、先ほどのアイデアも含めて考えていきたい。

まさに多様な教育の環境という意味で、貴重なご意見を頂いた。こういうアンケートを実施する目的というのは、市が何を考え、どうしたいのか、どういうことを市民の方に情報としていただきたいのかを明確にすることだと思う。

森田村塾の話があったが、多様な世界をより多くの皆様に認知していただく場を、こういうアンケート実施を通じて働きかけができるのであれば、非常に素晴らしいことだと思う。

また、QRコード等でいろいろな情報を展開していくということも市は考えており、第1期総合戦略の様子も、もう少し伝えた方がいいのではないかと事務局の説明があったが、ケーブルテレビさんなどが、ユーチューブのような、短めの総合戦略のイメージ映像をお伝えいただくと、あっという間に子どもたちも理解できるし、市側の思いも伝わるかもしれない。予算のこともあるが、検討の価値はあると考える。この意見については、今後どのように反映できるか考えていただきたい。

■委員 このアンケートはよくできていると思う。今回で終わりではないので、いろいろ修正したい箇所や聞きたい項目は年度を変えてやればよいと思う。そこで、このアンケート調査の対象に、例えば外国のALTの先生なども追加し、香南市はどうでしたか、というような内容で、客観的な目で見えていただくのもいいのではないかと。また、学校で配るということで、香南市外から来られている先生方にも、このアンケートをお願いしてもいいのではないかと。のいち動物園がまた世界中で使われている旅行者向けの口コミサイト「トリップアドバイザー動物園ランキング」で1位になった。外国人の方の目や、外から見たのいち動物園の魅力をあまり広げすぎない程度に聞いてみるのもいいのではないかと。と思う。

- 委員長 ひとつアイデアをいただいたと思う。今回の対象者は子ども、あるいは若者ということなので、そこの実施を基軸に据えていきたいという事務局側の提案ではあるが、もっと幅広く意見を伺ってみると、年齢層やそれぞれの立場によって、感じ方が全く違う。また参考になるご意見が得られるのではないかと。そういう視点は重要だと思う。したがって今のご提案に関しては、一斉にやるというよりも段階を分けていき、まずは子どもたちへの実施を第1段階として、その結果が出始めていきつつ、他の階層の方々に実施をすると、どう比較できるかといったようなことを考えていくといいのではないかと。
- 私も社会調査の観点は専門ではないので、どこまで活かしきるかということは、学術的にはベースがないが、社会調査士、行政の立場だと、こういうアンケートなどは専門的なお立場の方もいるのではないかと。専門的な方にもアドバイスをいただきながらやっていく手はあると思う。
- 基本目標4のところ、大学との連携が弱いという話が第1期の中であった。私ども高知大学にも社会調査士の育成を教育している研究者がいる。そういうところに更にアプローチをかけていただき、先ほどご意見いただいたような階層が違う部分での比較というのが、どれくらいのn数があれば有意差が出るのか、などを併せて一緒にご検討いただくといいのではないかと。反映できるように考えていきたい。
- 委員 このアンケートの結果を広報に載せる予定はあるか。
- 事務局 広報等で、いただいたご意見等は掲載していきたい。
- 委員 私たちだけでなく香南市全員で考えられたらいいと思う。多かった意見に対して市がどのような取り組みをするか、興味のない人にも目に入るようなところで知らせていただきたい。
- 委員長 せっかくやるのだから、その効果を最大化しないといけない。これが目的ではなく、得られたデータをどう読み解いて、どう動かすか、というための基礎データである。
- そういう思いで、この委員会でも議論いただいている。結果に関しては、大いに波及していくように、今のようなご質問を踏まえつつ、考えていっていただきたい。
- 委員 このアンケートを拝見して、アンケート調査するということはすごくいいことだと思ったが、その中で二点思うところがある。
- 1点目はこのアンケートに伴って、香南市の魅力はどう伝えるか、という伝え方のところ。私自身考えてみたら、アンケートの対象となっている小・中学校の時は、進学校に行っていた関係もあり、どちらかというといい大学に入って、いい会社に入っているのに意識が向いていた。このアンケートは、小・中学生の進学を考える時期に、自分の生まれ育ったところにどんな仕事があり、どういった人生が送れるのか、ということを変えて考えるきっかけになると思う。こういった機会はなかなか無いので、香南市でこ

のような施策をやっている、ということにプラスして、「香南市にはこんなに輝いて人生を送っている人がいる」ということをぜひ伝えていただきたい。香南市で住むこと自体について考える良いきっかけにもなると思う。

2点目は、アンケートの項目。子どもは大人では考えつかないような大きな夢を持っていて、漠然と「あなたはどんな夢を持っていて、香南市にどのようなものがあれば叶えられますか」というような設問があれば、自分たちの想定外の大きな答えが返ってきて、それに香南市として答えることができれば、他の市町村とは違う特徴になっていくのではないかと。

■委員長

1点目に関してはご意見の通り、18歳あるいは中学生は、進学というところが人生において重要なターニングポイントになり、そこを考えるのは当然である。進学というのを大学という名前とか、そういうところで見ている。

一時期、進学校などの進路担当の先生と直接お話しする機会があったが、生徒は地域の置かれている課題に全く接する場がなく、足元を見ずに単に大学への進学だけを考え過ぎてしている。こここそが地域課題の先端的な地域であり、ここから人生を設計してどうあるべきか考えていけば、子どもたちの未来は全く違ったものになる。進路担当の先生もそのギャップを相当意識しており、どうやったら変えていけるか悩んでいた。先程委員がおっしゃったようにアンケートを通じて、地域の課題や施策をよりリアルに、かつ身近なところの事例として伝える場に徹底的にしていかなければいけない。それが子どもたちの将来、あるいは自分自身の人生設計、将来の夢を考える機会となる。その結果ユニバーサルという夢もあってもいいのではないかと。いろいろなパターンがあると思うので、その点は意識していただければいいと思う。そういう中で、夢に関して広く聞いていく。こういうところを聞き出していく設問は具体的にあるか。

■事務局

アンケート用紙の間4に入れている。今回の第2期では仕事の創出ということについても重要視している点もあることから、例えば「希望している仕事が香南市で就くことができますか」などの項目を、もう少し膨らみを持たせて、今後の施策に活かしていきけるようなものを付け足すことを考えている。

■委員長

希望する仕事の設問はあるが、「仕事・産業の振興」という箇所にあるので、最初に間口が決まっていて、そこから選ぶ印象がある。「あなたの希望する仕事は市内にあるか、なければどういう仕事か」そういうところまで書けるといいと思う。

■委員

共通券や硬貨をもらう案はいいと思う。私は冬の夏祭りというイベントの実行委員で、「共通の小判・硬貨をまちで換金して買ってもらう」という取り組みをやっている。子どもにもおとなにも好評である。アンケートに答えたメリットとして考えてもいいのではないかと。子どもたちの意見を参考にするのなら、子どもたちが楽しんで答えられるよう、やわらかいフォントやイラストを添えるなど工夫できないか。

各地で祭りやイベントが中止になる中、先日香南市の「かとり」でイベントがあった。ドライブスルーという趣向などさまざまな工夫があり好評だった。冬の夏祭りも中止となったが12月初旬には赤岡寺子屋2020という地蔵アートのイベントを企画している。子どもたちが笑顔になることを主体に考えたまちづくりの取り組みに、皆さまにもご協力いただきたい。

■委員長

アンケートの中に、地域の祭りや文化に関する設問、要望がどれくらい盛り込まれているか。アンケートのフォント・冊子自体が冷たいような感じがあるのか、委員のおっしゃった趣旨とは違うかもしれないが、アンケートのフォントとして、ユニバーサルデザインフォントというものがある。これに注目しているかどうかで決定的な違いがある。行政でも、神戸市はほとんどの行政文書にこのフォントを使用し市民に発信している。通常のフォントでは、色覚に問題を抱えている方や、高齢者を含め通常の方より物が見えにくい方は、視認性が低下している。より視認性を上げていく工夫がユニバーサルデザインフォントにはある。フォントの使用料金を出してでも、子どもたちにもより見やすい工夫、伝わりやすい配慮がしてあると、より行政の姿勢が見えてくると思う。

事務局は祭りや文化といったことはぜひ設問にいられていこうとしているので、これでいいのかなどの相談があったらご確認いただきたい。

■委員

香南市の魅力を伝えるというところで、実際アンケートを取ろうとしている世代に近いおとな社会、帰ってきて市に住んで働いている人はいると思う。そういう人の生の声や実際感じているところを、ご本人の了承を得たうえで顔写真付きでコメントを載せてはどうか。

■委員長

冊子には魅力を伝えるということで市民の顔も多く出ている。事例的なところをどこまで盛り込むか。あまり事例が多いと誘導されてしまい、そのイメージで答えていくことがあるかもしれない。その点をうまく調整していくのが難しい。冊子の「とっておきの香南市」に市民の顔や声が多く載っている。よりリアルなモデルが近くにあるということのをうまく伝えていけばいいということだと思う。参考にさせていただきたい。

■委員

設問4の「仕事・子育て・まちづくり」のところだが、仕事と子育てが、特に女性は直結していると思う。この設問で見ると、計画のなかでは間違っていないと思うし、表現はこうなると思うが、例えば子育ての時期になったときに、「仕事と子育てを両立したいと思いますか」というような質問は、「両立したい」のか「しばらくは子育てを中心に、環境が許せば子育てということ自分の仕事として認識してみたいのか」というところがあるので、設問をそういうものでもいいのかなという印象は受けた。そこによっても若干施策は変わってくるのではないかと。自然に女性も社会進出をしていき、小さな子どもからでも預けられ、仕事ができる良い環境に向かっていると思うが、例えば乳児の場合、職場にベビーベッドがあって、子どもが泣いたら抱っこできるような

環境が、母親や子どもにとってはいいのではないか。男性・女性に限らず、仕事と子育ての両立をどのように考えているのか聞いてみたい。具体的に書くとなんを聞きたいのか分からなくなってしまうので、仕事と子育てが直結しているというような意識で、質問の在り方とか少し変えてみてもいいのではという感じはした。

あと、「こうなんの未来」にクイズが載っている。参考になればだが、協議会のほうで2・3年前から子ども向けのクイズ大会を行っている。コロナになった時、自宅に居てもできるように、当協議会ホームページに掲載し開催した期間があった。QRコードなどで香南市のホームページで回答が見られ、そこを覗くとクイズが更新されていたり、香南市の情報や地域の祭り・文化・歴史が学べたりするページがあるという遊び心が追加されると、18歳までの子どもさんに聞きたいという点と市が情報発信しているページの連携を持てるような印象を受けた。

■委員長

先ほどのおまけのクイズの部分を活用して、もっと子どもたちに香南市を知ってもらえるような、そういう工夫ができるのではないかと。例えば「子ども香南市検定」みたいなことで、初段とか二段とかどんどん高めていくと、最終的には市長と一緒に何かができるといったインセンティブを設けて、香南市の行政や暮らし、これを全部理解していこうとするような取り組みにしていけば、どんどん盛り上がっていくと思う。地域を愛する気持ちに繋がるのではないかと。今回だけではないと思うので、是非こういうところから企画を皆さんでブレインストーミング的に集まってどんどん盛り上げていくと面白い。産振の部会等の場でやっていただくのもいいかもしれない。

設問によって仕事と子育ての両立、ワークライフバランスをどうイメージしていったらいいのかが分かるような、そんな設問があればということをご提案いただいた。この投げかけに関してもご意見がいただければと思う。

■委員

先ほど市長にも、この委員会は活発で他と違うとお褒めの言葉をいただいたが、今回の若者、子ども向けのアンケートの取り組みを見て、さらにレベルアップしたと感じた。1,700くらいある自治体が地方創生について悩んでいると思うが、これが前例になって追従してくるかもしれないという話を聞くと、非常に誇らしく思う。前例なしに創っていったにしては、非常に出来が良いと思う。このパンフレットも、子ども向けを意識しながら基本計画をうまく表現しているし、アンケートにしても継続して、定点観測の意味であり変わらないように、設問の多さも適当だと思う。

1つだけ意見をいうとしたら、アンケートの最後は、本当の自由意見欄にしてはどうか。問8、問9、問10は下の端に、例えばこんなことについてといった例示にして、子どもと若者の自由な発想が活きてくるようなそういう記述にした方が、書く側もより悩みながら答え、計画も頭に入っているのではないかと。

■委員長

自由記述欄の部分の具体的改定案についてご提案をいただいた。できるだけ縛られずに、ただ何もないと空欄になる可能性があるということで、例えば問8、問9、問10

に書いてある部分を挙げておいて自由にとというのは大きな提案、改善点ではないか。あとは書いてくれたものを市としてどう取り扱うか。仮に一生懸命に記入してくれた子どもたちが、その後どうなるかというところを自分の意見がこうなると見届けられることができれば、これは市としても大きなうねりを持つことができる。例えば、ここに書かれた意見の取り扱いというのが全て市議会で取り上げられるとなれば、市としてもかなり責任を持ち、しっかりと取り上げて市の行政に活かしていく方向を考えることになる。書く方もその後を楽しみに、期待しながらしたためてくれるかもしれない。今のようなご提案に関しては、ぜひ事務局で考えていただきたいと思う。

■委員

アンケートの分析が大事だと思う。仕事柄いろいろな年齢の受験生を指導しているが、よく将来を見ている子、普通の子、考えてない子がいる。その子たちに少し情報を与え、対話することによって変わることがある。ぜひこのアンケートを実施して、その後、その子どもたちの何人かと直に対話する機会を持って本音を引き出せれば、得るものがあるのではないかな。

■委員長

このアンケートは無記名なので、可能であれば意見を出していただいた方を実際に更に深掘りしてみるなどできればいい。会話が広がる一つの素材にしていくということで、おそらく一回実施すると、いろいろなアイデアがさらに出て、大きなうねりが起きそうな気がする。

委員の皆様からご意見、改善に対するご提案をいただいた。今回の第2期総合戦略は、子どもたちを中心に次世代を考えていこうというテーマに則ってアンケートを実施すること。それに関連した総合戦略の「こうなんの未来」という子ども・若者アンケート用の資料を作成して併せてご覧いただくということ。そのアンケートの実施については小学6年生、中学3年生、市内在住の18歳、ということで、n数が全体で700から800くらいの、こういった年齢の方々に定点でアンケートを実施し、その変化も見えていこうということ。この方向性に関して異論はないか。

■委員

異議なし

■委員長

細かい設問、あるいは「こうなんの未来」の描き方等に関しては、少し工夫、改善を図るところでご意見をいただいたので、事務局のほうで参考にしていただく。アンケートの設問に関しては、この後はお任せいただいて、特に意見をいただいた委員の皆さまには、こういう形で反映できているか、というやり取りをさせていただく。最後は事務局と私とで確認させていただくということを以てお任せいただきたいがよろしいか。

■委員

異議なし

4. その他

(1) 今後の策定委員会のスケジュール

5. 閉会